

昨年12月11日、コロナ禍第5波と第6波との間隙をぬい、53名の参加者を得て市民交流会を開催しました。「4つのきょういく仮説（協育・競育・響育・共育）」やマジック交流を切口に、これまでの支援活動の成果を報告し、参会者の皆さんから幅広く意見・感想をいただきました。

初めての試みとして実施した「フリートーク対話」では、4つの仮説グループに分かれ車座での活発な対話が展開されました。加えて3名のパネラー、壁谷教育長各位には、本法人の活動を深くえぐっていただき、新たな視点やエネルギーを頂けたことに感謝いたします。

2021 市民交流会の開催 蒲郡商工会議所 C.H.

マジック交流

不思議さや
未知の体験
への興味は
万国共通



カンボジア活動報告

4つのきょういく
仮説から支援活動
の本質がみえる



- 【協育】他者（集団）を学びのパートナーとして位置づけ、リードしたりフォローし合ったりしながら高め会っていく学び。
- 【競育】他者の学び（考え・作品・技能など）を交流し合い互いに評価し合うことで、自身の能力のより客観的な理解が進み、もっとがんばろうといった向上心が高まる学び。
- 【響育】自身の能力や資質の足りなさを素直に受け止め、足りなさをばねに積極的に挑戦し習得しようといった学び。
- 【共育】指導者と学習者の2者を対峙してとらえるのではなく、支援や指導の総体をすべて学びとして受け止め、様々な活動を通してそれまで培った知見や能力が拡大再生産していく様相。

本会パネラー櫻間寿人 氏から、交流会の感想を寄せていただきました。

市民交流会のパネラーとして参加しました。オアシスとバイヨン中学校が協力し
つくりあげたカンボジア流の運動会。そこで見せた、生徒たちの生き生きとした表
情が印象に残りました。

学校現場では、働き方改革や感染症対策のため、生徒たちが競い合ったり、共に
つくったりする体育大会などの行事を、縮小や廃止する方向にあります。しかし、
カンボジアでの成果を聞き、今後の学校経営のあり方について考えさせられました。

カンボジアで教育ボランティア活動を13年間継続されてきた背景には、大変な苦
労があったと思います。しかし、オアシスのみなさんは、口々に「楽しいことばかり
で、苦労はありませんでした。」と質問に答えてみえました。その姿は充実感に溢れ
ていて、うらやましく感じました。

フリートーク

人のために行
動するDNAを
お持ちなん
ですね



パネルトーク

カンボジアとオ
アシスに魅力が、
次回は知人と一
緒に参加したい



総評

期待を育て
る教育の実
現を



カンボジアの子どもたち・先生へ「伸びよ！輝け！学校づくり募金」

募金：1口3千円 あなたの3千円で公立学校の無料登校の実現が、さらに中卒者の就職
の可能性を拓きます。

※国からの学校運営費は極めて少額で、小中学校では教材費・テスト代等の集金
が日常化しており、このことが就学率を停滞させる原因にもなっている。

募金先：特定非営利活動法人オアシス 郵便為替：00840-8-123690

※本年1月よりゆうちょ料金の新設及び改定がありました。ご承知の上ご利用ください。